

(一社) 山梨県サッカー協会 4種委員会 議事録

2017 第1回理事会

〈会議の名称〉

理事会

〈会議の日時〉

平成29年4月18日(火) 午後7時～9時

〈場所〉

(一社) 山梨県サッカー協会 2階 会議室

〈出席者〉

- ◇石原幸周委員長(甲府) ◇小林芳昭副委員長(峡中) ◇福田和久副委員長(峡北)
- ◇風間斉副委員長監事(峡東) ◆志村祐理事・会計(甲府) ◆藤田徹理事会計補佐(郡南)
- ◆三澤厚司理事(郡東) ◆末木一幸理事(峡東) ◇望月一徳理事食育(峡中)
- ◇内田淳理事(峡中) ◆村松貴志理事(峡北) ◇西島秀和理事(郡東)
- ◇三浦善明理事(郡南) ◇三科健二郎事業運営部長 ◇溝呂木勉審判部長
- ◇神取一弘技術委員長 ◇横森潔キッズ部長 ◇野口フットサル部長
- ◇鈴木和幸理事広報部長(甲府)

〈議事〉

司会：福田副委員長

付議事項

1. 委員長挨拶
2. 協議事項
 - (1) 報告事項
 - ① 専門部報告
 - ② その他
 - (2) 峡北地区の現状について(福田副委員長・峡北地区理事)
 - (3) 2017Nanahocupについて(石原委員長)
 - (4) 天皇杯1回戦について(石原委員長)
 - (5) 天皇杯2回戦について(石原委員長)
 - (6) ヴァンフォーレ甲府ホームゲーム出労について(石原委員長)
 - (7) 年度途中移籍通知について(鈴木広報部長)
 - (8) 熱中症対策について(石原委員長)
 - (9) ウェルフェアオフィサーについて(三浦理事)
 - (10) 関東少年サッカー大会山梨の協賛について(石原委員長)
 - (11) その他
 - ① 要望書について
 - ② スポーツ保険について

議事経過

1. 委員長挨拶

- ・平成 29 年度第 1 回理事会、一年皆様の協力を得ながら、リーグ 大会等を実施していきたいと思う、宜しくお願いする。

2. 協議事項

(1) 報告事項

①専門部報告

事業運営部 なし

審判部（溝呂木部長）

- ・4 級新規取得講習会が始まっている。本年度 6 回開催予定、第 4 回～第 6 回受付中 6/4, 7/9, 8/6 に実施予定です。K I C K O F F から申し込みをお願いします。

技術部

広報部（鈴木部長）

- ・2017 年度登録チーム数 74 チームの承認が全て終了した。

キッズ部（横森部長）

- ・本年度出前フェスティバルの実施について 峡北地区、峡中地区、郡内東地区で予定している。

フットサル部（野口部長）

- ・バーモントカップの予定を別紙のとおり報告する。

②その他

食育プロジェクト（望月理事）

- ・振込先の変更があり間違いの無いように資料を再度送る、地区理事は周知をお願いします。

(2) 峡北地区の現状について（福田副委員長・峡北地区理事）

峡北地区全チームの意見として地区再編について協議してほしい。

- ・登録チームが減少し本年度は 5 チームとなった。
- ・地域的に過疎化、児童数減少が他地区と比べて顕著である。
- ・27 年 1 月～12 月の地域出生数は 200 人で今後も同様に推移するとみられている。

○地区再編に伴う選手の移動が負担となりデメリットとして考えられる。トレセン活動など。地区割りとしては現状のまま 4 種の各地区負担については考慮する。としてはどうか。

○今後、チーム数が増えるということは考えづらいが、地区再編以外にどのような方法があるのか、また現実はどういった状況になるのかを時間をかけて考えていく必要はないか。

峡北地区は歴史のあるチームが多いが、少子化の影響で減少している。一方でクラブチームに選手が集中する現象がある。そんななか存続しているチームは指導者・保護者の努力がありそれは絶やさないようにしなければならないと考える。チーム数が減っていくことで問題となるのは、4 種委員会でも求められる地区割りでも動員が求められる専門部役員の負担が増えていくこともある。そのことにより指導者が離れていくことも懸念している。チームの存続、地域活動の継続のためにも、4 種役割に関する地区負担の軽減を求めたい。

- 峡北地区では、広範囲での活動をする中で各場所での少子化が発生する。そういった意味ではこれまでよりさらに広範囲での活動を余儀なくされるが、対応していくしかないと考えられる。クラブチーム等に選手が集中するという点に関しては経営的な考えや魅力、指導力の向上などの努力もあると考え、そういった努力をどのチームも考えていく必要はある。指導者の問題については理事会等において軽減していくことを検討しても良いと思う。
- チームがなくなることで指導者の活動を終えるのではなく、地区4種指導者として活動の場にとどまっている指導者もいる。
- 理事会として峡北地区4種役割軽減について、峡北地区として今後の4種大会運営や来年度の役員改選に向けてのご提案いただき検討していくこととした。

(3) 2017Nanahocup について (石原委員長) 別紙

- ・開会式の設営及び撤収作業 (横断幕・整列等)
- ・開会式は全チームユニホームで臨む (天候による)
- ・開会式 8 時 30 分～9 時予定 役員集合は 7 時 30 分
- ・選手宣誓：昨年度優勝チーム「V F 甲府U-12」より
- ・地区ごとに受付を設置し、プログラム配布をする。
- ・当日はV F 甲府ホームゲーム対ジュビロ戦 14:00～があり混雑が予想される。地区理事は参加チームに伝達する。

□運営担当地区確認

- ・6月18日(日) 決勝T・(小瀬補助=郡内南、小瀬球技場=郡内東)
- ・7月1日(土) 決勝T・(小瀬補助=峡北・甲府)
- ・7月1日(土) 小瀬球技場確保 リーグで使用
- ・7月9日(日) 最終日 押原天然芝G 8時集合

(4) 天皇杯1回戦について (石原委員長) 送付済み

- 4月23日(日) 設営・撤収作業 午前8時30分集合 13時キックオフ
- 出労者確認 石原・小林・風間・志村・内田・鈴木・西島・三浦・三科・横森
- フェアプレーフラッグ：葦崎アストロス

(5) 天皇杯2回戦について (石原委員長)

- 6月21日(水) 設営・撤収作業 午後2時集合 19時キックオフ
- 出労人数：協会役員 (石原・風間・横森)

■他 12 名 各地区 2 名 6 月初めころまでに報告

会場設営及び案内 6 名、再入場口 2 名

入場整理ホームゴール裏 2 名、アウェーゴール裏 2 名

- 出労者 ○石原・○小林・福田・○風間・志村・藤田・三澤・末木・望月・○内田
村松・鈴木・西島・三浦・○三科・溝呂木・神取・○横森・野口
- フェアプレーフラッグ：石和 SSS

(6) ヴァンフォーレ甲府ホームゲーム出労について (石原委員長)

- 平成 29 年 6 月 17 日 (土) 設営・撤収 15 時 30 分集合 19 時キックオフ

□出労者：石原・福田・藤田・内田・村松・鈴木・西島・三浦・神取・野口

(7) 年度途中移籍通知について（鈴木広報部長）別紙

- ・移籍に関する4種ガイドラインで示している通り4種申し合わせ事項は廃止となったが、リーグシーズンやカップ戦の出場規定等により年度途中移籍を管理する必要があることから、「年度途中移籍選手・通知」の提出を移籍先チームより提出していただく必要があり書式を作成した。

□通知はデータに限り、石原委員長宛てに提出することとする。

□地区理事は共有する必要があり、氏名・チーム名は公開することとする。

(8) 熱中症対策について（石原委員長）

- ・昨年度は大きな事故等もなく大会運営が出来ました。
- ・2年目となるが、あえてこれからの季節において熱中症予防を心がけ、熱中症対策ガイドラインを遵守し、安全・安心な環境を作っていくよう各チームへの働きかけをお願いします。

□WBGT計測器具は必ずチームでも所持すること。

■審判委員会よりクーリングブレイク時の時間の使い方について、選手にしっかりと休養と飲水の時間を与えるための「3分」はしっかりと確保することを徹底してほしいとの要請があった。地区への案内をお願いします。

(9) ウェルフェアオフィサーについて（三浦理事）別紙

□平成29年度マッチウェルフェアオフィサー配置計画

- ・昨年11月の全日本山梨県大会でマッチウェルフェアオフィサーを配置したが、取り組みは始まったばかりであり、指導者及び父兄には認知されていないのが現状。
 - ・本年度は少年サッカーを取り巻く皆様に認知していただくことを目標とします。
1. 関東、全少、ニッサン各大会の予選を中心に30試合程度マッチウェルフェアオフィサー（見守り役）を配置する。
 2. 主催大会会場に啓発ポスターを掲示する。
 3. サッカー協会発行の小冊子を父兄に配布する。
 4. 各地区で理事を中心に講習会を行い、マッチウェルフェアオフィサー資格者を増やしていく。

(10) 関東少年サッカー大会の協賛について（石原委員長）

平成29年度「フジパン」が関東大会のスポンサーと決定した。（期間8年を予定）

□協賛社：フジパングループ □放送局：テレビ東京

□事務局：日刊スポーツ □広告会社：東急エージェンシー

(11) その他

①要望書について（石原委員長）別紙

- ・「関東少年サッカー大会日程についての要望書」並びに「回答」についての説明
- ・関東大会とバーモントカップ開催日重複することについての回答

②スポーツ傷害保険について

・トレセン参加選手のスポーツ保険の扱いについての方向性として、全てのトレセン活動において指導者及び選手が対象となる保険に加入することが望ましい。ただし統一することには時間がかかることではあり、現状でトレセン活動が行われていることから、各地区での対応により状況を共有する中で全体の一致する考えを見出していくこととする。

以上

議事録作成 平成 29 年 5 月 30 日
広報部 鈴木和幸